

日 時:令和 6 年 8 月 31 日(土) 9:30~11:00

講 演:看護における「希望」の概念 クリティカルケア看護の実践から

演 者:大阪公立大学大学院看護学研究科 看護学部

実践看護科学領域 急性看護学 教授 北村 愛子 氏

座 長:岩手医科大学附属病院 副看護部長 田村 ヤス子 氏

例年、岩手県看護協会職能合同集会は、通常総会と同日の午後に開催していましたが、今年度は初の取り組みとして、通常総会とは別日の開催としました。当日は日本各地に甚大な被害をもたらした台風 10 号の影響を気にかけつつ、なんとか会場にお集まりいただいた会員の方も多かったと思います。

そのような天候不順な中での開催ではありましたが、当日は会場 63 名、オンラインで参加 33 名、計 96 名の方が参加して下さいました。今年の職能合同集会は、NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」でも紹介された、クリティカルケア看護専門看護師の第一号の北村愛子氏を講師にお招きし、『看護における「希望」の概念』をテーマにご講演いただきました。参加者の参加動機も、ほぼ半数の方が「テーマや講師に惹かれて」と回答されており、今回の講演に寄せる期待の大きさがうかがわれました。

講演では、急性期や重症患者の命に向き合う究極の状況の中で、北村氏が見出した「希望」という概念を、理論的に、かつ日々の看護実践と照らし合わせながらお話いただきました。クリティカルケアにおける看護実践を、実際の患者、家族の言葉で事例紹介した際は、会場のあちこちからすすり泣く声が聞こえ、「講師のお話で涙が止まらなかった」「患者さんとのやりとりが目に浮かぶよう感じ入った」「講師の体験が心に響いた」と、多くの方々が深く感銘を受けたようでした。また、講演の感想では、「いままで希望という概念がなく、これからは新たな視点で介入ができると感じた」「自分が漠然と感じている悩みのヒントが得られた気がした」「職業人として、一人の人間として、もっと真剣に患者と向き合わなければと思った」などの声が寄せられ、みなさんが自身の看護を振り返る、よいきっかけになったように思います。

私たちは日々、理想と現実の狭間で揺れ動きながら、それでも目の前にいる患者、家族に「看護」しています。日常的に意識することは難しいけれど、「希望」は確かにそこにあると理解することで、明日からまた「看護」と向き合うことができるのではないかと思います。今回の講演が、みなさんの明日を、より力強いものにしてくれることを願っております。(助産師職能委員 阿部志保)

